看護学科 教育課程（2学年）

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	年間コマ数	履修方法及び卒業要件		1学年 前期	1学年 後期	2学年 前期	2学年 後期	3学年 前期	3学年 後期	4学年 前期	4学年 後期	担当者	単位認定者
教養科目群	発達・行動・心理		心理学	2		15	必修6単位＋選択科目から4単位以上選択	必修18単位＋選択9単位以上		15								
			生命倫理	2		15				15								
			教育学	2		15			15									
			教育情報論		2	15				15								
			教育心理学		2	15				15								
			医療民俗学		2	15			15									
			健康スポーツ理論		2	15				15								
			健康スポーツ実技		1	15			15									
	言語と文化		英語Ⅰ	1		15	必修3単位＋選択科目から2単位以上選択		15									
			英語Ⅱ	1		15				15								
			英語表現		1	15				15								
		1	ステップアップ英語Ⅰ		1	15					15						柴山森二郎	柴山森二郎
		2	ステップアップ英語Ⅱ		1	15						15					杉田 雅子	杉田 雅子
			英文講読Ⅰ	1		15							15				杉田 雅子	杉田 雅子
			英文講読Ⅱ		1	15									15		杉田 雅子	杉田 雅子
			中国語		1	15			15									
			コリア語		1	15			15									
	人と社会・生活		家族学	1		15	必修4単位＋選択科目から3単位以上選択		15									
			情報処理	1		15			15									
			法学(日本国憲法含む)	2		15				15								
			環境学		2	15				15								
			ジェンダー論		2	15				15								
			地域社会学		2	15				15								
			ボランティア活動論		1	15			15									
			経済学		2	15				15								
	基礎教育		大学の学び入門	1		15	必修5単位		15									
			生物学基礎	1		15			15									
			数学基礎	1		7.5			7.5									
			化学基礎	1		7.5			7.5									
			英語基礎	1		7.5			7.5									
計（卒業要件）							27											
専門基礎科目群	臨床科目群		解剖学Ⅰ	2		30	必修16単位＋選択科目から7単位以上選択		15	15								
			解剖学Ⅱ		1	15				15								
			臨床解剖学		1	7.5										7.5	浅見知市郎	浅見知市郎
			生理学	2		30			15	15								
			臨床生理学		1	7.5										7.5	洞口 貴弘	洞口 貴弘
			生化学		1	15				15								
			疾病の成り立ち	1		15				15								
			臨床病理学		1	7.5										7.5	栗田 昌裕	栗田 昌裕
		3	免疫・感染症学	1		15					15						藤田 清貴・高橋 克典	藤田 清貴
		4	薬理学	1		15					15						栗田 昌裕	栗田 昌裕
			臨床薬理学		1	7.5										7.5	栗田 昌裕	栗田 昌裕
		5	臨床検査学	1		15						15					小河原はつ江	小河原はつ江
			緩和医療学		1	7.5							7.5				斎藤(龍)・小林(剛)・大井	斎藤 龍生
		6	病態栄養学		1	15					15						後藤 香織	後藤 香織
		7	発達心理学	1		15					15						榎本 光邦	榎本 光邦
		8	臨床心理学		1	15					15						森 慶輔	森 慶輔
	地域科目群		公衆衛生学	2		15				15								
			疫学		1	15									15		石館 敬三	石館 敬三
			保健統計		1	15									15		石館 敬三	石館 敬三
			社会福祉・社会保障制度論	1		15							15				矢島 正栄	矢島 正栄
			地域保健行政	2		15							15				矢島 正栄	矢島 正栄
			栄養学(含食品学)	1		15				15								
		9	歯科保健	1		15						15					浅見知市郎	浅見知市郎
			リハビリテーション概論		1	7.5			7.5									
			救急法		1	15							15				北林 司・小池菜穂子	北林 司
		10	健康管理論		1	15					15						下村洋之助	下村洋之助
		11	カウンセリング		1	7.5						7.5					森 慶輔	森 慶輔
		ー	社会福祉・地域サービス論		1	15						15					今年度開講せず	今年度開講せず
計（卒業要件）							23											

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年 前期	1学年 後期	2学年 前期	2学年 後期	3学年 前期	3学年 後期	4学年 前期	4学年 後期	担当者	単位認定者
専門科目群	基礎看護学		看護学概論Ⅰ	1		7.5	必修67単位＋選択科目から9単位以上選択	7.5									
			看護学概論Ⅱ	1		7.5			7.5								
		12	看護援助学Ⅰ	1		15				15						真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
		13	看護援助学Ⅱ	1		15					15					真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
		14	看護援助学演習Ⅰ	2		30				30						上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		15	看護援助学演習Ⅱ	2		30					30					上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		16	看護過程論	2		30				15	15					上星 浩子	上星 浩子
			基礎看護学特論		1	7.5									7.5	真砂 涼子・上星 浩子	真砂 涼子
	成人看護学	17	成人看護学総論	1		7.5				7.5						牛込三和子	牛込三和子
		18	成人看護学Ⅰ	1		15				15						牛込三和子・栗田 昌裕	牛込三和子
		19	成人看護学Ⅱ	1		15					15					牛込三和子・小林 功	牛込三和子
		20	成人看護学Ⅲ	1		15					15					牛込・酒井・鈴木・荒木	牛込三和子
			成人看護学Ⅳ	1		15						15				牛込・鈴木・萩原・及川	鈴木 珠水
			成人看護学Ⅴ	1		15						15				酒井・萩原・小池・及川	酒井美絵子
			成人看護学演習	1		15						15				酒井・鈴木・萩原・小池	鈴木 珠水
			成人看護学特論		1	7.5									7.5	牛込三和子他	牛込三和子
	老年看護学	21	老年看護学総論	1		7.5				7.5						伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		22	老年看護学Ⅰ	1		15					15					伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		23	老年看護学Ⅱ	1		15					15					伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
			老年看護学演習	1		15						15				伊藤まゆみ・川久保悦子	伊藤まゆみ
			老年看護学特論		1	7.5									7.5	伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
	小児看護学	24	小児看護学総論	1		7.5				7.5						野田 智子	野田 智子
		25	小児看護学Ⅰ	1		15				15						矢島・井埜・小林(敏)・土屋	矢島 正栄
		26	小児看護学Ⅱ	1		15					15					野田 智子	野田 智子
			小児看護学Ⅲ	1		15						15				野田 智子・柴﨑 由佳	野田 智子
			小児看護学特論		1	7.5									7.5	野田 智子	野田 智子
	母性看護学	27	母性看護学総論	1		7.5				7.5						早川 有子・益永 陽子	早川 有子
		28	母性看護学Ⅰ	1		15					15					早川 有子	早川 有子
			母性看護学Ⅱ	2		30						30				早川・中島・横田・池田	中島久美子
			母性看護学特論		1	7.5									7.5	早川 有子	早川 有子
	精神看護学	29	精神看護学総論	1		7.5				7.5						小林 信・鎌田由美子	小林 信
		30	精神看護学Ⅰ	2		30					30					小林 信・鎌田由美子	小林 信
			精神看護学Ⅱ	1		15						15				小林 信・鎌田由美子	小林 信
			精神看護学特論		1	7.5									7.5	小林 信	小林 信
	公衆衛生看護学		公衆衛生看護学概論	2		30						30				矢島・中下・齊藤(玲)	矢島 正栄
			公衆衛生看護学Ⅰ		2	30								30		小林亜由美・廣田 幸子	小林亜由美
			公衆衛生看護学Ⅱ		2	30								30		矢島・小林(亜)・廣田	小林亜由美
			公衆衛生看護学Ⅲ		1	15								15		廣田 幸子	廣田 幸子
			公衆衛生看護学Ⅳ		2	30								30		小林(亜)・廣田・一場	小林亜由美
			公衆衛生看護管理学		1	7.5								7.5		矢島正栄	矢島 正栄
	統合分野	31	在宅看護概論	1		7.5				7.5						小笠原映子	小笠原映子
		32	在宅看護論Ⅰ	1		15					15					小笠原映子	小笠原映子
			在宅看護論Ⅱ	2		30						30				小笠原映子・生須典子	小笠原映子
			看護の学び入門	1		7.5		7.5									
			臨床看護管理学	1		7.5								7.5		酒井美絵子	酒井美絵子
			災害看護論	1		7.5						7.5				矢島正栄・矢嶋和江	矢島 正栄
			国際看護論	1		7.5						7.5				小林(亜)・廣田・一場	辻村 弘美
	臨地実習 臨床看護分野		基礎看護学実習Ⅰ	1		1w		1w									
		33	基礎看護学実習Ⅱ	2		2w				2w						真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
			成人看護学実習Ⅰ	3		3w							3w			牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
			成人看護学実習Ⅱ	3		3w							3w			酒井・小池・藤巻	酒井美絵子
			老年看護学実習	4		4w							4w			伊藤・川久保・井本	伊藤まゆみ
			小児看護学実習	2		2w							2w			矢島 正栄・柴﨑 由佳	矢島 正栄
			母性看護学実習	2		2w							2w			早川 有子・中島久美子	中島久美子
			精神看護学実習	2		2w							2w			小林 信	小林 信
専門科目群	臨地実習 公衆衛生看護分野		公衆衛生看護学実習		5	5w	必修67単位＋選択科目から9単位以上選択								5w	矢島・小林(亜)・廣田	小林亜由美
	臨地実習 統合分野		在宅看護実習	2		2w								2w		小笠原映子	小笠原映子
			総合実習	2		2w								2w		公衆衛生看護学を除く学科教員全員	伊藤まゆみ
	研究		看護研究概説	1		15						15				伊藤まゆみ・矢島 正栄	伊藤まゆみ
			卒業研究		4	60								30	30	公衆衛生看護学を除く学科教員全員	公衆衛生看護学を除く学科教員全員
計（卒業要件）							76										
卒業要件（最低）単位数							126										

授業科目名	ステップアップ英語Ⅰ	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	リスニング、対話訓練、語法説明、表現の暗唱などを行う。	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	看護師として職場で外国人に英語で対応する、また海外の病院で英語を使って臨床研修をするなどの機会に備えて、英語でコミュニケーションをする力をつける。		
学習到達目標	1年の英語表現で「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」の全10章のうち5章まで勉強した。この本は内容が豊富で非常に良い教科書なので、再度この本を使い、まず残りの6章から10章までを勉強し、そのあと第1章から総復習をすることで、看護英語の力をつける。		
関連科目	1年で英語表現を取った学生は是非この授業をとって欲しい。また今回あらたに履修する学生も歓迎する。言葉の勉強は繰り返しが多いので、途中からでも十分に勉強できる。		
成績評価方法・基準	授業中の小テスト（40%）、期末テスト（60%）		
準備学習の内容	復習に重点を置き、授業で習った表現や語法を反復練習し、機会があればそれらを使ってみる。		

回	講義題目	講義内容
1	Introduction	授業の進め方、学習の仕方
2	Unit 5: Activities 4-5	検査の語彙の学習とロールプレイ
3	Unit 6 Activities 1-2	産婦人科の会話の聞き取りと基本表現
4	Unit 6 Activities 3-5	産婦人科の用語とロールプレイ
5	Unit 7: Activities 1-2	予防接種の会話の聞き取りと基本表現
6	Unit 7: Activities 3-5	予防接種の用語とロールプレイ
7	Unit 8: Activities 1-2	手術の会話の聞き取りと基本表現
8	Unit 8: Activities 3-5	手術の用語とロールプレイ
9	Unit9: Activities 1-2	術後/日常看護の会話の聞き取りと基本表現
10	Unit9: Activities 3-5	術後/日常看護の用語とロールプレイ
11	Unit 10: Activities 1-2	心のケアと文化や宗教の違いに関する聞き取り
12	Unit 10: Activities 3-5	心のケアと文化や宗教の違いに関するロールプレイ
13	Review(Unit1-4)	病院の受付から診察まで
14	Review(Unit 5-8)	検査から診療まで
15	Review(Unit 9,10)	まとめ

教科書	持っている人は買う必要なし。 書名：「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」 著者：知念クリスティーン、迫　和子　出版社：医学書院 定価：2200円＋税
参考書	看護英語辞典、英和辞典

授業科目名	ステップアップ英語Ⅱ	単位認定者	杉田　雅子
対象学年	第　2　学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。		
学習到達目標	読解力とリスニング力の向上。映画を見ながら、会話表現に慣れる。 英米の発音や表現の違いを認識する。登場人物の心情を思いやる。		
関連科目	【関連する教養科目】英語Ⅰ、Ⅱ　英語基礎　英語表現　ステップアップ英語Ⅰ 英語講読Ⅰ，Ⅱ　広くは看護に関する科目全般に関連する。		
成績評価方法・基準	後期末試験（90%）、小テスト（10%）		
準備学習の内容	各Unitの Previewingを予習する。各Unitのスクリプトを読む。 前回のCDを聞いて、気に入ったセリフを覚える。		

回	講義題目	講義内容
1	Introduction	授業の説明
2	Unit 1	ウィリアムのノッティング・ヒル
3	Unit 2	運命のオレンジジュース
4	演じる（1）＆ Unit 3	好きなセリフで演じる　女神は映画スター
5	Unit 3	女神は映画スター
6	Unit 4	バースデー・パーティー
7	演じる（2）＆ Unit 5	好きなセリフで演じる　アナとデート
8	Unit 5	アナとデート
9	Unit 6	傷心の日々
10	演じる（3）＆ Unit 7	好きなセリフで演じる　突然の再会
11	Unit 7	突然の再会
12	Unit 8	引き裂かれた夢
13	演じる（4）＆ Unit 9	好きなセリフで演じる　私を好きになって
14	Unit 9	私を好きになって
15	Unit 10	正しい決断―彼女は僕の命

教科書	Richard Curtis 著、神谷久美子、Kim R. Kanel 編著 *Notting Hill『ノッティング・ヒルの恋人』* 松柏社、2011年
参考書	英和辞書、英英辞書

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	藤田　清貴
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（fujita@paz.ac.jp）。
科目の目的	生体内防御反応機構などの免疫のシステムの基礎知識，および免疫異常による疾患の特徴などを学ぶ。さらに，感染症の基礎知識，特徴，感染経路，臨床的経過などについても学ぶ。		
学習到達目標	1. 自然免疫，獲得免疫について説明できる。 2. 免疫グロブリンの種類と特徴，および免疫応答について説明できる。 3. 感染症の特徴および院内感染について説明できる。 4. 細菌感染症，および性感染症について説明できる。 5. ウイルス感染症について説明できる。 6. 肝炎ウイルスの種類と特徴について説明できる。 7. 免疫不全症の種類と特徴，およびHIV感染症について説明できる。 8. 自己免疫疾患と自己抗体との関連性について説明できる。 9. アレルギーの種類と特徴について説明できる。		
関連科目	疾病の成り立ち，臨床検査学，疫学・保健統計		
成績評価方法・基準	定期試験80%，受講態度20%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。試験形態は筆記試験とする。		
準備学習の内容	各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	免疫の概念	自己と非自己の識別，免疫に関与する細胞，組織，器官（藤田）
2	免疫システム概論	自然免疫，獲得免疫（藤田）
3	抗原	抗原の定義，分類，抗原性を発揮するための条件（藤田）
4	抗体の構造と働き（1）	免疫グロブリンの構造，分類，特徴（藤田）
5	抗体の構造と働き（2）	免疫グロブリンの多様性と抗原マーカー，一次免疫応答，二次免疫応答（藤田）
6	補体の働き	補体の定義，成分，活性化経路，臨床的意義（藤田）
7	感染症（1）	感染症総論，検査，治療，予防，院内感染，感染症の現状（高橋）
8	感染症（2）	細菌感染症，細菌の構造，抗菌薬，グラム陽性，陰性菌（高橋）
9	感染症（3）	ウイルス感染症，インフルエンザ，ヘルペスウイルス感染症（高橋）
10	感染症（4）	性感染症，梅毒，クラミジア感染症，マイコプラズマ感染症（藤田）
11	肝炎ウイルス	A型，B型，C型，D型，E型肝炎ウイルスの特徴，診断，臨床的経過（藤田）
12	HIV感染症／AIDS	HIV感染症とAIDS，HIVの感染経路，診断，臨床的経過（藤田）
13	免疫異常-免疫不全症	B細胞不全症，T細胞不全症，複合型不全症の分類と特徴（藤田）
14	免疫異常-自己免疫による疾病	自己免疫疾患の定義，分類，自己抗体と臨床的意義（高橋）
15	免疫異常-アレルギー	Ⅰ型，Ⅱ型，Ⅲ型，Ⅳ型，Ⅴ型アレルギーの発生機序，特徴（藤田）

教科書	中島　泉，他：「シンプル免疫学」（南江堂） 「病気がみえる⑥　免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア）
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。

授業科目名	薬理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義。毎回指導内容をプリントに記入して配布する。	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科目の目的	医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。 １）薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。 ２）薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。 ３）薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。 ４）薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。		
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。		
関連科目	生理学　生化学　疾病の成り立ち　小児看護学Ⅰ　母性看護学Ⅰ　老年看護学Ⅰ		
成績評価方法・基準	試験（100%）		
準備学習の内容	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。		

回	講義題目	講義内容
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識．薬物治療に影響を与える因子． 投与経路と薬の吸収．分布，代謝，排泄．
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬．局所麻酔薬．中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬．麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬．
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬．抗痙攣薬（抗てんかん薬）． 筋弛緩薬．抗パーキンソン薬．
4	自律神経薬． オータコイド	自律神経の基礎知識．コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）．アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬．オータコイドの種類とその作用．プロスタグランディンの臨床応用．
5	強心薬．抗狭心症薬と抗不整脈薬．	強心薬（ジギタリス）の投与法．ジギタリスの副作用とその対策．抗狭心症薬．抗不整脈薬．
6	利尿薬． 降圧薬．	利尿薬．利尿薬の臨床的応用． 降圧薬．抗動脈硬化薬．
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬．駆虫薬． 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬． 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬．
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬．止血薬．抗血栓療法薬． 開発と化学療法．副作用と組み合わせ．
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬．抗ウイルス剤．免疫について．免疫療法．
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法．消毒薬の濃度と殺菌速度． 呼吸器病薬．抗結核薬．

回	講　義　題　目	講　義　内　容
11	皮膚疾患に用いられる薬剤.	皮膚疾患に用いられる薬剤. 造影剤．放射性医薬品.
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤．点眼薬．輸液	ショックの原因別分類．ショックの対応と薬剤. 点眼薬．輸液の目的．輸液剤.
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬．ビタミン剤	中毒の状態．急性中毒に対する処置．解毒剤. 排泄と吸着．代謝賦活薬・ビタミン剤
14	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法．妊婦の薬物療法．老年者の薬物療法. 嗜好品の薬理．薬物相互作用.
15	薬剤の安定性：保存および混合の問題点．まとめ.	薬剤の保存．薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）.

教　科　書	特になし
参　考　書	「新版看護学全書６ 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」（メヂカルフレンド社）

授業科目名	臨床検査学	単位認定者	小河原はつ江
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	金曜：18:00～19:00
科目の目的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎知識を学習する。		
学習到達目標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。		
関連科目	解剖学（人体構造）、生理学（人体機能）を含む各臨床科目		
成績評価方法・基準	定期試験（筆記）８０％、ミニテスト１０％、平常点１０％		
準備学習の内容	講義の最後に通知する。講義の理解度を確認するためミニテストを毎回実施する。		

回	講義題目	講義内容
1	臨床検査とその役割 臨床検査の流れと医療スタッフの役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割について解説する。
2	一般検査（1）	検体の取り扱い方、尿及び便検査の説明
3	一般検査（2）	脳脊髄液、その他の体液検査の説明
4	血液検査（1）	血沈(赤沈)、血球、血液像の説明
5	血液検査（2）	出血、凝固検査の説明
6	化学検査（1）	血清タンパク、酵素、糖代謝検査の説明
7	化学検査（2）	脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等の説明
8	免疫血清検査（1）	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫の説明
9	免疫血清検査（2）	免疫グロブリン検査、アレルギー、腫瘍マーカー等の説明
10	内分泌機能検査	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、等の説明
11	微生物検査・寄生虫検査	主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について説明
12	病理検査	細胞診・病理組織検査の説明
13	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査の説明
14	RCPC	症例検討
15	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　別巻６　臨床検査」大久保昭行編　(医学書院)
参考書	「最新臨床検査の ABC」日本医師会編　(医学書院) 2007 「臨床検査提要　35 版」金井正光編　(金原出版) 2008 「検査データの生理的変動　―原理から実線へ―」中甫訳　(医歯薬出版) 2004 「臨床検査のガイドライン JSLM2012」日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編、(宇宙堂八木書店) 2012

授業科目名	病態栄養学	単位認定者	後藤香織
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえるよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。		
学習到達目標	基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあった栄養学的対策を習得する。		
関連科目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学		
成績評価方法・基準	定期試験85%、平常点15%		
準備学習の内容	特になし		

回	講義題目	講義内容
1	臨床栄養学とは	1）食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2）栄養学の基礎の復習 3）臨床調理の基本について簡単に紹介する
2	栄養の評価法	1）臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2）栄養学に関する研究について
3	疾病と栄養（1）	肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。
4	疾病と栄養（2）	糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。
5	疾病と栄養（3）	糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する
6	疾病と栄養（4）	動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。
7	疾病と栄養（5）	高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで２０％を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
8	疾病と栄養（6）	骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のＱＯＬの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。
9	疾病と栄養（7）	消化器疾患その１ 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。
10	疾病と栄養（8）	消化器疾患その２ 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。
11	疾病と栄養（9）	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、ＰＨの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。
13	疾病と栄養(11)	１）血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 ２）嚥下障害について
14	疾病と栄養(12)	１）小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 ２）栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。
15	まとめ	

教　科　書	「エッセンシャル　臨床栄養学」佐藤和人他　著（医歯薬出版） 「糖尿病食事療法のための食品交換表」（文光堂）
参　考　書	「ナースのための生化学・栄養学」（南山堂）

授業科目名	発達心理学	単位認定者	榎本光邦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義･演習（講義内にて）･事例検討	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	人間の成長発達を理解する基礎として，各発達段階における知的，心理的，社会的発達，人格の発達を理解することを目的とする．		
学習到達目標	各発達段階の知覚，感情と情動の発達，認知の発達，パーソナリティと自我形成，行動の発達的変化について習得する．		
関連科目	教養科目：心理学，教育学，教育心理学，大学の学び入門 専門基礎科目（臨床科目）：臨床心理学 専門基礎科目（地域科目）：カウンセリング 専門科目：小児看護学概論，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学Ⅲ，母性看護学総論，精神看護学概論，精神看護学Ⅰ，地域看護学概論，地域看護学Ⅰ		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20%）を加味して評価する．		
準備学習の内容	前回の講義時に指示をする．		

回	講義題目	講義内容
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題，社会的発達について
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴，性に関する問題
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴,特に自己概念形成（自分探し）に焦点を当てて考察する
9	青年期の精神障害（1）	対人恐怖・社会恐怖等
10	青年期の精神障害（2）	摂食障害・スチューデントアパシー等
11	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など
12	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的変化の特徴，家族との関わり，仕事との関わりの変化について
13	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化，死のとらえ方等
14	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する
15	まとめ	これまでの講義の総括

教科書	「ナースのための心理学３　パーソナリティ発達論」　岡堂哲雄編　（金子書房）
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	臨床心理学	単位認定者	森　慶輔
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	主に講義による	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する		
学習到達目標	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面、治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す		
関連科目	すべての科目と関連		
成績評価方法・基準	期末試験（おおむね50%）、課題レポート（おおむね20%）と授業態度（おおむね30%）を総合して評価する		
準備学習の内容	教科書の該当部分を読んでおく		

回	講義題目	講義内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	臨床心理学の基礎1	人間の問題行動はどのように捉えられるのか、正常と異常の区別の観点から考える
3	臨床心理学の基礎2	人間の発達を概観し、発達段階と疾病・障害の関係について理解する
4	臨床心理学の基礎3	保健医療領域における問題行動について、主に転移・逆転移と防衛機制について理解する
5	臨床心理アセスメント1	心理領域のアセスメントについて、その目的と方法を理解する
6	臨床心理アセスメント2	日本で広く使われている個別式知能検査について理解するとともに、認知症のスクリーニング検査を体験する
7	臨床心理アセスメント3	日本で広く使われている矢田部ギルフォード性格検査と CMI を体験し、心理テストによるアセスメントの長所短所を考える
8	臨床心理アセスメント4	日本で広く使われている風景構成法（あるいはバウムテスト）を体験するとともに、箱庭の VTR を通して子どもの心理状態のアセスメントについて考える
9	心理（精神）療法1	S,Freud の精神分析について、その基本的な考え方を理解する
10	心理（精神）療法2	C,R,Rogers のクライエント中心療法について、その基本的な考え方を理解する
11	心理（精神）療法3	行動療法について、その基本的な考え方を理解する
12	心理（精神）療法4	認知行動療法について、その基本的な考え方を理解する
13	心理（精神）療法5	家族療法／短期療法について、その基本的な考え方を理解する
14	患者中心の看護とは？1	患者中心の看護とはどのようなものか、グループワークを通して考える
15	患者中心の看護とは？2	患者中心の看護とはどのようなものか、グループワークを通して考える

教科書	山祐嗣・山口素子・小林知博 編著「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房，2009年 ※1年次後期の「心理学」で使用したものと同じものなので、既に持っている場合は購入の必要はありません
参考書	鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版，2009年 高橋和巳「心を知る技術」筑摩書房，1997年（文庫版は2000年）

授業科目名	歯科保健	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	在室時随時
科目の目的	看護師・保健師・助産師として必要な歯科・口腔ケアの知識を習得する。		
学習到達目標	歯・口腔に関する基本的事項を説明できる。適切な口腔ケアを実践できる。		
関連科目	各専門科目		
成績評価方法・基準	レポート(80%)と平常点(20%)を加味して評価する。		
準備学習の内容	シラバスに沿ってテキストを読んできてください。		

回	講義題目	講義内容
1	オリエンテーション	歯科保健とは？　授業の進め方
2	歯	歯・歯周組織の機能、構造
3	歯	歯・歯周組織の組織学
4	口腔とその周囲の解剖生理	口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺
5	口腔とその周囲の解剖生理	上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節
6	う蝕	う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法
7	歯周病	歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法
8	顎関節症	顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法
9	その他の歯科疾患	口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症
10	母子歯科保健	乳幼児歯科検診について
11	学校歯科保健	学校歯科健診について
12	地域歯科保健	市町村での歯科保健のとりくみ
13	成人歯科保健	成人における歯科疾患の疫学
14	老人歯科保健	高齢者の口腔ケア
15	口腔ケア	口腔ケア実技

教科書	2013年版　歯科保健関係統計資料　口腔保健・歯科保健の統計　口腔保健協会 2013年版　歯科保健指導関係資料　口腔保健協会
参考書	特になし

授業科目名	健康管理論	単位認定者	下村洋之助
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	２１世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりをみせており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。		
学習到達目標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。		
関連科目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論		
成績評価方法・基準	試験 80%と授業態度 20%で評価		
準備学習の内容	将来の医療人として幅広い知識を修得するよう、新聞・雑誌等参考にしておく		

回	講義題目	講義内容
1	健康とは	健康の定義、健康観、予防医学
2	健康の指標	人口、出生、婚姻、死亡、寿命など
3	健康増進	ＷＨＯの定義、わが国の現状
4	生活習慣（1）	栄養・食生活
5	生活習慣（2）	運動、休養、飲酒など
6	疾病予防（1）	生活習慣病、がん
7	疾病予防（2）	循環器疾患、代謝疾患
8	疾病予防（3）	骨・関節疾患、歯科口腔疾患
9	疾病予防（4）	感染症
10	疾病予防（5）	精神疾患（統合失調症、うつ病）
11	健康管理（1）	健康教育、集団検診など
12	健康管理（2）	健康管理の実際
13	健康情報（1）	健康情報
14	健康情報（2）	保健医療情報システム
15	まとめ	健康管理論まとめ

教科書	「学生のための健康管理学」 木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著（南山堂）
参考書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著（南江堂）

授業科目名	カウンセリング	単位認定者	森　慶輔
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	主に講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	さまざまな疾病・障害をもっている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する		
学習到達目標	特に精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師として必要な援助的態度を身につける		
関連科目	すべての科目と関連		
成績評価方法・基準	課題レポート2本（おおむね60%），授業への参加態度（おおむね40%）を総合して評価する		
準備学習の内容	講義題目に書かれている内容について、ある程度調べておくこと		

回	講義題目	講義内容
1	患者を理解するとは？	看護師や保健師にとって、患者やその家族のことを理解することは必須条件であるといえる。では患者を理解するとはどのようなことなのかを体験的に理解する
2	発達障害	幼児期に指摘されることが多い発達障害に関する知識を身につけるとともに、医療・教育・福祉の連携した支援のあり方について考える
3	不安障害／摂食障害	思春期・青年期に発現することが多い不安障害、摂食障害に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
4	気分障害	近年患者数が激増している気分障害に関する知識を身につけるとともに、病態に応じた支援・治療のあり方について考える
5	統合失調症	統合失調症に関する知識を身につけるとともに、社会復帰にむけた支援・治療のあり方について考える
6	認知症	認知症に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
7	病気になる、障害を負うということの意味	病気になる、障害を負うということを患者はどのように意味づけているのかを手記を通じて考える
8	まとめ	まとめ

教科書	坂本真佐哉ほか「心理療法テクニックのススメ」金子書房，2001年
参考書	アステラス製薬エッセイコンテスト事務局「病気が教えてくれたこと」文藝春秋企画出版部，2010年

授業科目名	看護援助学Ⅰ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。		
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ		
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、講義に関する意見（20%）		
準備学習の内容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講義題目	講義内容
1	対象者に適した看護援助 衛生的手洗い 環境整備	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。 看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。 看護援助の基本となる環境整備について学ぶ
2	生活環境(1)	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。
3	生活環境(2)	生活環境の一部である寝床環境を整える方法（シーツ交換）を学ぶ。また、援助を行う際の動作の基本となるボディメカニクスについて学ぶ。
4	コミュニケーション フィジカルアセスメント(1)	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。フィジカルアセスメントの基本的視点と生命徴候（バイタルサイン）を含む一般状態をアセスメントする方法を学ぶ。
5 6	フィジカルアセスメント(2)	呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
7	まとめ①	第1回～6回の復習を行う。
8	活動と運動 休息と睡眠	活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
9 10	食生活と栄養(1) 食生活と栄養(2)	食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法（食事介助、経管栄養法）を学ぶ。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
11	清潔保持と衣生活	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法（清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、寝衣交換）を学ぶ。
12	排泄	排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法（床上排泄、導尿、浣腸）を学ぶ。
13	感染予防	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。
14	安全・安楽 罨法	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じて安楽を提供する援助方法（罨法）について学ぶ
15	まとめ②	第８回～14 回の復習を行う。 日常生活援助技術についてのまとめを行う。

教　科　書	『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学－基礎看護技術』志自岐康子他（編）（メディカ出版）. 『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学－ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他（編）（メディカ出版）.
参　考　書	『写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に』吉田みつ子他（監修）（インターメディカ）.

授業科目名	看護援助学Ⅱ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの知識・技術を踏まえ、診療に伴う援助技術の根拠を理解する。		
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. 対象者の状態を理解し、対象者のニーズに対応するためのフィジカルアセスメント技術の活用を学習する。 3. 診療に伴う援助技術について、根拠に基づいて理解する。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、その他各看護学総論		
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、講義に関する意見（20%）		
準備学習の内容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講義題目	講義内容
1	診療に伴う援助技術とは 看護記録・報告	診療に伴う援助技術について、看護師の役割と他職種との連携の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの活用について学ぶ。看護援助の実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。
2	検査・処置時の援助技術(1)	検査（生体検査、検体検査）・処置の概要を学ぶ。検査・処置時の看護師の役割について学ぶ。
3 4	検査・処置時の援助技術(2)	生体検査の種類および検査時の対象者への対応について学ぶ。 検体検査での検体の取り扱いおよび検査時の対象者への対応について学ぶ。
5	与薬に伴う看護技術(1)	薬剤の生体への影響と薬剤の種類と取り扱いについて学ぶ。薬剤管理における看護師の役割と具体的取扱い方法を学ぶ。
6 7	与薬に伴う看護技術(2)	薬剤投与の方法について理解する。 ・内服、外用による薬剤投与時の援助技術を学ぶ。 ・注射（筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）に伴う援助技術について学ぶ。 ・輸液による薬剤投与の管理方法（静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ）について学ぶ。 ・輸血について学ぶ
8 9	呼吸管理技術	呼吸を楽にする技術（吸引・吸入、姿勢・呼吸法）について、具体的援助方法を学ぶ。
10	まとめ①	第1回～7回の復習を行う。 創傷管理における具体的援助方法について学ぶ。
11 12	フィジカルアセスメント	筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
13	統合演習	設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学Ⅰ・Ⅱおよび看護援助学演習Ⅰ・Ⅱで得た知識と技術を統合する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
14	死亡時のケア	死亡時のケアの概要を学ぶ。
15	まとめ②	第 1 回～14 回の復習を行う。 診療に伴う援助技術についてのまとめを行う。

教　科　書	『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学－基礎看護技術』志自岐康子他（編）（メディカ出版）. 『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学－ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他（編）（メディカ出版）.
参　考　書	『写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に』吉田みつ子他（監修）（インターメディカ）. 『写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！』本庄恵子他（監修）（インターメディカ）. 『写真でわかる臨床看護技術②－呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！』本庄恵子他（監修）（インターメディカ）.

授業科目名	看護援助学演習Ⅰ	単位認定者	馬醫世志子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	看護援助学Ⅰにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ		
成績評価方法・基準	実技試験（50%）、課題（50%）および演習参加状況		
準備学習の内容	1. 看護援助学Ⅰでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講義題目	講義内容
1	衛生的手洗い	衛生的手洗いの方法を習得する。
2	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ。
3	生活環境	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。
4		環境測定を実施し、環境調整について学ぶ。
5		ボディメカニクスの原理を体現する。
6		ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。
7	フィジカルアセスメント	生命の徴候（バイタルサイン）を正確に測定する方法を習得する。
8		呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。
9		
10		
11	コミュニケーション	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。
12		
13		
14		
15	活動と休息	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。
16		ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。
17	まとめ①	バイタルサイン測定と聴診についての実技試験実施。
18	1-16回の復習	1-16回を振り返り、知識を整理する。
19	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。
20		健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。
21	清潔保持と衣生活	全身清拭、手浴、足浴、寝衣交換の方法を習得する。
22		
23	排泄	床上排泄（便器・尿器使用）の援助方法を習得する。
24		

回	講　義　題　目	講　義　内　容
25 26	洗髪	洗髪の方法を習得する。
27 28	感染予防 罨法	基本的な無菌操作（滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い）を習得する。 対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法（罨法）について学ぶ。
29 30	まとめ② 19-28 回の復習	日常生活援助技術についての実技試験実施。 看護援助学演習Ⅰを振り返り、臨床での応用を考える。

教　科　書	志自岐康子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学 - 基礎看護技術』メディカ出版. 松尾ミヨ子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学 - ヘルスアセスメント』メディカ出版. 吉田みつ子他（監修）『写真でわかる基礎看護技術 - 基礎的な看護技術を中心に！』インターメディカ. 本庄恵子他（監修）『写真でわかる臨床看護技術① - 注射・検査に関する看護技術を中心に！』インターメディカ.
参　考　書	なし

授業科目名	看護援助学演習Ⅱ	単位認定者	馬醫世志子
対象学年	第 2 学年	学期	後期
単位数	2 単位（30 コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	看護援助学Ⅱにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 診療に伴う基本的な援助技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ、看護援助学Ⅱ、その他各看護学総論		
成績評価方法・基準	実技試験（50%）、課題（50%）および演習参加状況		
準備学習の内容	1. 看護援助学Ⅱでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講義題目	講義内容
1	導尿	導尿法（一時的導尿法、持続的導尿法）を習得する。
2	浣腸	浣腸法を習得する。
3	生体検査	生体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。
4		・心電図検査
5		・呼吸機能検査（スパイロメーター、経費的動脈血酸素飽和度）
6		
7	検体検査	検体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。
8		・採尿 ・採血
9	与薬	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な援助技術を習得する。
10		・経口与薬
11		・筋肉内注射、皮下注射
12		・輸液管理方法（静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ）
13		
14		
15	まとめ①	処置時の援助技術についての実技試験実施。
16	1-14 回の復習	1-14 回を振り返り、知識を整理する。
17	呼吸管理	吸引、吸入、体位ドレナージの援助技術を習得する。
18		
19	創傷管理	ドレッシング法、包帯法に関する援助技術を習得する。
20		
21	フィジカルアセスメント	筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。
22		
23		
24		

回	講　義　題　目	講　義　内　容
25 26 27 28	統合演習	設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱで得た知識と技術を統合する。
29 30	まとめ② 17-28 回の復習	診療に伴う看護技術についての実技試験実施。 看護援助学演習Ⅱを振り返り、臨床での応用を考える。

教　科　書	志自岐康子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学 - 基礎看護技術』メディカ出版. 松尾ミヨ子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学 - ヘルスアセスメント』メディカ出版. 吉田みつ子他（監修）『写真でわかる基礎看護技術 - 基礎的な看護技術を中心に！』インターメディカ. 本庄恵子他（監修）『写真でわかる臨床看護技術① - 注射・検査に関する看護技術を中心に！』インターメディカ. 本庄恵子他（監修）『写真でわかる臨床看護技術② - 呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！』インターメディカ.
参　考　書	なし

授業科目名	看護過程論	単位認定者	上星浩子
対象学年	第2学年	学期	通年
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的に科学的に行っていく技術を習得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を習得する。		
学習到達目標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる 2. 看護過程と看護理論の関係について考える 3. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント（解釈・判断）ができる 4. 紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる 5. 紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる 6. 評価・修正ができる 7. 効果的なカンファレンスができる		
関連科目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学 専門科目群：看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ		
成績評価方法・基準	看護過程展開（60%），筆記試験（40%）および講義・演習の参加度を総合して評価する		
準備学習の内容	事前学習および各回で提示される課題に取り組み授業に臨む		

回	講義題目	講義内容
1	看護過程の概要	看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ
2	看護過程と看護理論	人間、健康･環境･看護の捉え方について学び、看護課程と看護理論の関係について学ぶ
3 4 5	情報の整理と解釈	情報収集と情報収集の枠組み、ゴードンの機能面からみた１１の健康ﾊﾟﾀｰﾝの類型にそった情報の整理と１次アセスメントについて学ぶ
6 7 8	情報の整理と解釈	収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ
9	看護診断	看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、また看護診断の優先順位の考え方について学ぶ
10	看護計画	計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法（目標設定・計画立案）を導き出す
11	評価	立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ
12	看護記録	看護の実施についてPOS方式等による看護記録の書き方を学ぶ
13	知識の確認	看護過程の知識を確認し、次回からの演習に臨む
14	カンファレンス	効果的なカンファレンスの方法について学ぶ
15 16 17	演習（事例展開A）	演習では対象をホリスティックに捉えるために必要な情報について考える。紙上患者事例Aを用いて、情報を分類・整理し、それらの意味を解釈し、全体像を捉え、看護診断を導く（15～17回）

回	講　義　題　目	講　義　内　容
18 19	発表	看護診断、期待される結果について発表し、各看護診断や目標の共有化･明確化を図る
20	前期のまとめ	実習に向け、看護過程展開における知識の確認や自己の傾向について考える
21	実習における看護過程のまとめ	前期講義や実習における学び、看護過程展開の特徴を振り返る
22 23 24	演習（事例展開 B）（個人）	紙上患者事例 B を用いて看護過程を個人で展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く（22～24 回）
25 26 27	演習（GW）	個人で抽出した看護診断を各グループで検討し、期待させる結果、計画立案をする（25～27 回）
28 29	プレゼンテーション	看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化･明確化を図る
30	まとめ	看護過程が看護ケアの質を保障し向上させるための、系統的な思考の枠組みであることを確認し、今後の課題を明確にする

教　科　書	Carpenito-Moyet, L. J.『看護診断ハンドブック』第 9 版（新道幸恵監訳）. 医学書院. 江川隆子（編）『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』第 3 版. ヌーヴェルヒロカワ.
参　考　書	江川隆子（編）『これなら使える看護診断―厳選 84NANDA-Ⅰ看護診断ラベル』医学書院.

授業科目名	成人看護学総論	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。		
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特性を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。		
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成績評価方法・基準	定期試験90%、平常点10%		
準備学習の内容	特になし		

回	講義題目	講義内容
1	成人看護学の概要 成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握
2	成人各期の特徴と保健問題	青年期の特徴と保健問題、 壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題
3	成人保健1 生活習慣病の予防1	生活習慣病対策：糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満 糖尿病を中心に　患者の体験　患者を生きる
4	成人保健2 生活習慣病2	がんの動向、がん対策、システム がん対策基本法　がん患者の体験
5	成人保健3	成人保健と性、成人保健と労働
6	環境と健康問題	環境と健康問題
7	成人期にある人の健康障害と看護1	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護1
8	成人期にある人の健康障害と看護2	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護2

教科書	「新体系看護学14　成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向　厚生の指標　2012/2013年版」（厚生統計協会）
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅰ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。		
学習到達目標	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成績評価方法・基準	筆記試験100%		
準備学習の内容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	（牛込三和子） 成人看護学の概要	
2	（栗田昌裕） 概論1	
3	概論2	
4	消化器疾患1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	消化器疾患2	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	消化器疾患3	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	呼吸器疾患1	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	呼吸器疾患2	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	呼吸器疾患3	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	循環器疾患1	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	循環器疾患2	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	循環器疾患3	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	血液・造血器疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	神経系疾患1	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	神経系疾患2	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】－【15】（医学書院）
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅱ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	1.成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2.機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学習到達目標	栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関連科目	基礎看護学・解剖学・生理学・老年看護学		
成績評価方法・基準	筆記試験100%		
準備学習の内容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講義題目	講義内容
	（小林　功）	
1	血液疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
2	栄養代謝障害1	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
3	栄養代謝障害2	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
4	栄養代謝障害3	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	内分泌疾患	主な内分泌疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	腎疾患1	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	腎疾患2	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	感染症	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患1	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患2	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	泌尿器疾患	主な泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	眼疾患	主な眼疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	皮膚疾患・歯・口腔疾患	主な皮膚・歯・口腔疾患の病態生理、症状、検査、治療

教科書	系統看護学講座【2】－【15】　医学書院 「周手術期看護論」　雄西　智恵美、秋元　典子　編集　ヌーヴェルヒロカワ
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅲ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学習到達目標	1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。		
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成績評価方法・基準	筆記試験100％（各授業中の確認テストも含む）		
準備学習の内容	事前に指定教科書を読んでおくこと。		

回	講義題目	講義内容
	（牛込三和子）	
1	臨床看護学総論1	導入
2	臨床看護学総論2	検査・治療と看護
	（酒井美絵子）	
3	臨床看護学総論3	病期と看護（クリティカル・ケア、周手術期、回復期）
	（鈴木珠水）	
4	臨床看護学総論4	病期と看護（慢性期）
	（萩原英子）	
5	臨床看護学総論5	病期と看護（ターミナル期）
	（酒井美絵子）	
6	消化器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
7	消化器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護
	（荒木伸生）	
8	循環器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
9	循環器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護1
10	循環器疾患患者の看護3	症状・障害と看護、主な疾患と看護2
	（鈴木珠水）	
11	呼吸器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
12	呼吸器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護1
13	呼吸器疾患患者の看護3	症状・障害と看護、主な疾患と看護2
14	呼吸器疾患患者の看護4	症状・障害と看護、主な疾患と看護3
15	呼吸器疾患患者の看護5	症状・障害と看護、主な疾患と看護4

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】・【3】・【5】（医学書院） 「周手術期看護論」 雄西　智恵美、秋元　典子　編集　ヌーヴェルヒロカワ
参考書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授業科目名	老年看護学総論	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。		
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。		
関連科目	１年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（80%）、演習レポート（10%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化
4	老化疑似体験①	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
5	老化疑似体験②	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割
8	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向 2012/2013」（厚生統計協会）

授業科目名	老年看護学Ⅰ	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。		
関連科目	老年看護学総論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（70%）、レポート（20%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化（認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能）
2	高齢者の症候①	不眠、難聴、視力障害
3	高齢者の症候②	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症
4	高齢者の疾患①	認知症
5	高齢者の疾患②	精神・神経疾患（せん妄、うつ病）
6	高齢者の疾患③	精神・神経疾患（脳血管障害、パーキンソン病）
7	高齢者の疾患④	循環器疾患（虚血性心疾患、心不全）
8	高齢者の疾患⑤	呼吸器疾患（肺炎、閉塞性肺疾患、結核）
9	高齢者の疾患⑥	腎・泌尿器疾患（腎不全、前立腺肥大症）
10	高齢者の疾患⑦	運動器疾患（大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆）
11	高齢者の疾患⑧	皮膚・感覚器疾患（皮膚掻痒症、疥癬、白内障）
12	高齢者の疾患⑨	感染症（インフルエンザ、食中毒）
13	高齢者と治療①	高齢者と薬物療法
14	高齢者と治療②	高齢者と手術療法
15	高齢者と治療③	高齢者とリハビリテーション

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論」佐々木英忠（医学書院）
参考書	特になし

授業科目名	老年看護学Ⅱ	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	高齢者の健康の維持･増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。		
学習到達目標	1. 高齢者の健康の維持･増進のための支援･教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド･オブ･ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、基礎看護学、成人看護学		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（70%）、レポート（20%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	健康の維持・増進活動①	食生活、排泄、清潔
2	健康の維持・増進活動②	歩行・移動、活動と休息
3	健康の維持・増進活動③	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ
4	老年期の看護問題①	廃用症候群、転倒
5	老年期の看護問題②	摂食・嚥下障害
6	老年期の看護問題③	排尿障害、排便障害
7	老年期の看護問題④	褥瘡、ドライスキン
8	老年期の看護問題⑤	認知症高齢者のケア、成年後見制度
9	老年期の看護問題⑥	事故予防と救急時の対応
10	老年期の看護問題⑦	その他の看護問題
11	エンド・オブ・ライフケア①	終末期にある高齢者と家族
12	エンド・オブ・ライフケア②	死後の処置（演習含む）
13	高齢者のアセスメント技術①	健康歴の聴取、認知機能
14	高齢者のアセスメント技術②	身体機能
15	高齢者のアセスメント技術③	フィジカルアセスメント（演習含む）

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論」佐々木英忠（医学書院） 「写真でわかる基礎看護技術」吉田 みつ子（インターメディカ）
参考書	特になし

授業科目名	小児看護学総論	単位認定者	野田　智子
対象学年	第　2　学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	成長発達過程にある子どもと家族の特徴を理解し、次世代を担う子どもと家族の健康問題解決のための方略について考察することを目的とする。		
学習到達目標	１．子どもの成長発達が理解できる。 ２．子どもと家族の生活が理解できる。 ３．子どもを育む環境が理解できる。 ４．子どもと家族の健康生活のための方略について考察することができる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験 80%、講義への参加度 20%		
準備学習の内容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、および専門基礎地域科目群と専門基礎臨床科目群（特に発達心理学、栄養学）を復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	子どもの特徴と小児看護の特徴	成長発達の原則、成長発達に影響する要因、小児看護の目指すところ
2	乳幼児期の子どもの成長発達と看護	乳幼児期の特徴と発達課題、乳幼児期の形態的成長発達
3		乳幼児期の機能的発達
4		乳幼児期の心理社会的発達
5		乳幼児期のセルフケアの発達、乳幼児期によく見られる健康問題
6	学童期、思春期の成長発達と看護	学童・思春期の特徴と発達課題、学童・思春期の形態的成長発達、学童・思春期の機能的発達、学童・思春期の心理社会的発達、学童・思春期のセルフケアの発達、学童・思春期によく見られる健康問題と学校保健
7	子どもと子どものいる家族の生活	乳幼児期の子どもを養育する家族の現状、乳幼児期の子どもを養育する家族の課題と支援
8	子どもを育む環境	わが国の母子保健の現状、わが国の母子保健施策の動向、現代の子どもを取り巻く環境の変化

教科書	1.「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2012.
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学Ⅰ	単位認定者	矢島　正栄
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	小児期に多く見られる健康障害の特徴と治療法を理解し、成長発達過程に健康障害を受けることによる生涯にわたる影響について学ぶことを目的とする。		
学習到達目標	1．子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムが理解できる。 2．子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療が理解できる。 3．キャリーオーバーや成育医療について理解できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験80%、講義への参加度20%		
準備学習の内容	専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）を復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	子どもと病気,子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴（潜伏期、急性期、回復期など）、ウイルス感染症、細菌感染症、その他の感染症
3 4	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病
5 6	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性・後天性心疾患、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症、子どもの全身麻酔と手術療法
7 8	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、血液疾患
9 10	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	腎・生殖器・生殖器疾患、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症、内分泌疾患
11 12	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患、運動器疾患、染色体異常
13 14	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患	低出生体重児の疾患、倫理的課題、子どもの主な事故・外傷と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD（注意欠陥多動性障害）、不登校、摂食障害、児童虐待
15	まとめ	1～14回講義内容のまとめ

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学［2］小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著（医学書院）2011
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学Ⅱ	単位認定者	野田　智子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	成長発達過程にある子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受け、どのように適応しようとしているのかを理解し、子どもに起りやすい健康障害に対する有効な介入方法について学ぶことを目的とする。		
学習到達目標	1．子どもの権利と小児看護の理念について理解できる。 2．健康障害が、子どもと家族に与える影響について理解できる。 3．健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への参加度 20%		
準備学習の内容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、および専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習しておくこと		

回	講義題目	講義内容
1 2	小児看護の理念	子どもの人権、子どもの最善の利益、小児看護における倫理、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント 子どもの病気の理解、プリパレーション
3 4 5	プリパレーション演習	グループでテーマに基づいてプレパレーションを計画・作成し、発表する
6 7	健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響	病気や障害に伴う子どものストレス、子どものストレス対処に対する支援 子どもの病気や障害に伴う家族のストレス、病気の子どもの家族のストレスに対する支援
8	外来における子どもと家族の看護	小児外来の種類、一般外来における看護、小児救急外来における看護、トリアージ
9 10 11 12	急性期にある子どもと家族の看護 救急処置が必要な子どもと家族の看護	急性期の特徴、急性期にある子どもと家族への看護 発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護 痙攣時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護 生命兆候が危険な状況のアセスメントと看護、子どもの一次救急救命処置
13	慢性期にある子どもと家族の看護	小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性期の特徴、慢性期にある子どもと家族のエンパワーメントを支援する看護
14	周術期にある子どもと家族の看護	小児期の周術の特徴（手術の時期と種類）、術善と術後の看護、手術を受ける子どもの家族への看護
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教科書	1.「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2012.
参考書	必要時提示する

授業科目名	母性看護学総論	単位認定者	早川　有子
対象学年	第　2　学年	学期	前期
単位数	1 単位（7.5 コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 14 時―15 時（早川研究室）
科目の目的	ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。また、性と生殖に関する理解をする。		
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。		
関連科目	教養科目群―生命倫理　家族学 専門基礎科目群―　解剖学Ⅰ　解剖学Ⅱ　生理学　栄養学　免疫・感染症学　疾病の成り立ち 薬理学 専門科目群―看護の専門科目		
成績評価方法・基準	試験 100%		
準備学習の内容	母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。		

回	講義題目	講義内容
1	母性看護の概念	母性（父性）とは、セクシュアリテイー リプロダクティブヘルツ／ライツ ジェンダーなど
	母性看護の機能と役割	母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望
2	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策を学ぶ。
3 ― 4	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能　女性外性器・内性器 男性生殖器 女性生殖器の機能　月経周期　調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化 ＊女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 内分泌・健康障害など
	受胎のメカニズム	受胎のメカニズム　染色体・遺伝子
	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン
5 ― 7	女性のライフサイクルと健康	女性のライフサイクルの変化―高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル ・高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期 ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期
8	リプロダクティブヘルスケア	家族計画とは　人工妊娠中絶　性暴力（ＤＶ）　在日外国人の母子保健など

教科書	「母性看護学Ⅰ　母性看護学概論」森恵美他（医学書院）
参考書	必要時提示する

授業科目名	母性看護学Ⅰ	単位認定者	早川　有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義（グループワーク含む）	オフィス・アワー	火曜日 14 時―15 時（早川研究室）
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。		
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。		
関連科目	教養科目群：生命倫理　家族学　環境学　生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学　免疫・感染症学　社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）		
成績評価方法・基準	試験　100%		
準備学習の内容	母子の健康問題に関連ある因子について、課題を持って講義に臨む。		

回	講義題目	講義内容
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。
2 － 7	母子保健と環境 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など ・身体的要因：栄養、喫煙、飲酒など
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。
9 － 13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。 （便秘　痔　貧血　体重管理　乳房等）
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。

教科書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル　早川有子他　著（医学書院）
参考書	必要時提示する

授業科目名	精神看護学総論	単位認定者	小林　信
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 16：30～17：30
科目の目的	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造、人格の発達過程について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。		
学習到達目標	1. 精神の健康とそれに影響を与える要素を知る。 2. 精神の機能と構造を理解する。 3. 人格の成長発達過程を理解する。		
関連科目	「発達心理学」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、授業の中で指示した提出課題（20%）によって評価する。		
準備学習の内容	自分（学生）自身の人格の発達とこころの健康について振り返って考えておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	精神保健とは	精神の健康の基本的な考え方
2	精神の機能と構造	精神力動論における精神の機能（意識）と構造 フロイトの精神力動論を中心に
3	欲求と防衛機制	人間の欲求、および防衛機制の働きと種類 マズローのニード論、適応機制と防衛機制、感情転移
4	健康な人格とは	健康な人格とその客観的尺度 心理検査の種類と用法を中心に
5	人格の成長と発達	精神および人格の成長発達とその課題 エリクソンの発達課題（乳幼児～青年期）を中心に
6	人間とストレス	ストレスとは何か、またそのコーピング(対処法) ラザルスのストレス対処理論を中心に
7	人間と危機状況	危機理論と危機介入 フィンクのモデルとアギュレラの理論を中心に
8	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]」武井麻子（医学書院）
参考書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]」武井麻子（医学書院）

授業科目名	精神看護学Ⅰ	単位認定者	小林　信
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	火曜日 16：30～17：30
科目の目的	精神障害を生物的、心理的、社会・文化的に説明することができ、その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。		
学習到達目標	1. 精神看護の対象を正しく理解できる。 2. 精神医療の歴史を把握し、現代社会における問題や課題を理解できる。 3. 精神の機能とそこに生じる症状を説明できる。 4. 精神障害および精神疾患の種類と特徴を理解できる。 5. 精神に障害をもつ人に必要な看護援助を科学的に説明できる。		
関連科目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅱ」、「心理学」「地域社会学」「疾病の成り立ち」 「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護過程論」		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、授業の中で指示した提出課題（20%）よって評価する。		
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講義題目	講義内容
1	精神看護の対象	精神医療および精神看護の対象の理解
2 3	精神医療・看護の歴史	精神医療と看護の歴史的変遷とその特殊性 海外の歴史と日本の歴史
4 5	精神保健福祉法とは	精神保健福祉法の概要 精神科における入院形態、行動制限、権利擁護および障害者自立支援法、医療観察法などの関連法規
6	精神科における人権擁護と看護倫理	精神看護における倫理とインフォームド･コンセント 行動制限（隔離と拘束）を中心に
7	リエゾン精神看護とは	リエゾン・コンサルテーション精神看護とは
8 9	精神の機能と症状	精神の機能および精神症状の種類と特徴
10	精神障害の分類	精神障害および疾患の分類（ICD-10 と DSMIV）
11 12	疾患と看護①　統合失調症	統合失調症の特徴と治療およびその看護（幻覚妄想状態と無為自閉、認知障害）
13 14	疾患と看護②　感情（気分）障害	感情障害（大うつ病と双極性障害を中心に）の特徴と治療およびその看護（うつ状態と躁状態、および自殺企図）
15 16	疾患と看護③ 神経症性障害、ストレス関連性障害	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、心因反応、解離性障害の特徴と治療およびその看護
17	疾患と看護④　摂食障害	摂食障害の特徴と治療およびその看護
18	疾患と看護⑤　人格障害	人格障害（境界性人格障害を中心に）の特徴と治療およびその看護

回	講　義　題　目	講　義　内　容
19	疾患と看護⑥　物質依存症	物質依存症（アルコール依存症を中心に）の特徴と治療およびその看護
20	疾患と看護⑦　発達障害、精神遅滞	発達障害と精神発達遅滞の特徴と治療およびその看護
21	疾患と看護⑧　器質性精神障害	器質性精神障害（認知症、症状精神病など）の特徴と治療およびその看護
22	精神科で行われる治療法①	精神科で行われる精神療法と身体療法、および看護者の役割
23	精神科で行われる治療法②	作業療法、レクリエーション療法、SST、心理教育など
24	司法精神看護	精神障がい者と犯罪、および医療観察法と司法精神看護
25 26	精神看護における援助方法①	患者-看護者関係とその展開（ペプロー理論）
27	精神看護における援助方法②	対象の自己決定と自律を促す援助（オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）
28 29	事例演習	事例を用いた看護過程の展開 グループワークと発表
30	まとめ	

教　科　書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学［１］」武井麻子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学［２］」武井麻子（医学書院）
参　考　書	「新・看護者のための精神保健福祉法Ｑ＆Ａ」日本精神科看護技術協会監修（中央法規） 「ペプロー看護論」A.W オトゥール他（医学書院） 「セルフケア概念と看護実践」南裕子他（へるす出版）

授業科目名	在宅看護概論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜:12:10～13:00(小笠原研究室)
科目の目的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。		
学習到達目標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。		
関連科目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成績評価方法・基準	筆記試験（90%）・授業への参加度（10%）		
準備学習の内容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	在宅看護の特徴	在宅における看護活動　自立支援と看護　病状・病態の予測と予防　在宅療養者の権利保障　地域におけるケア提供機関
3	在宅療養者の権利保障と諸制度	在宅療養者の権利保障　在宅看護と諸制度　自己決定支援/権利擁護
4 5	在宅看護の展開	継続療養における在宅看護　在宅看護への接続・連携専門職者との連携　在宅看護成立の条件　退院計画と継続看護【退院指導と退院計画　プランの共有家族・患者の意思　退院計画実践方法】
6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴（理論と実際） 【家族の機能】【看護学における家族】
7	地域で療養する人々と社会資源	在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり　地域で療養する人を支える保健・医療・福祉　フォーマル・インフォーマルなサービスの活用
8	訪問看護ステーションの機能と役割	訪問看護ステーションの機能と役割　事業経営

教科書	「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア」櫻井尚子（メディカ出版）
参考書	「国民衛生の動向」

授業科目名	在宅看護論Ⅰ	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜:12:10～13:00(小笠原研究室)
科目の目的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。		
学習到達目標	1．在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2．療養者および家族を支援するための在宅看護過程の展開方法を理解する。		
関連科目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成績評価方法・基準	筆記試験（90%）・授業への参加度（10%）		
準備学習の内容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	在宅看護概論の確認	在宅看護の特徴　在宅療養者と家族看護
2	在宅看護の仕組み１	訪問看護ステーションの理解　訪問看護ステーションの法的枠組み　在宅看護にかかわる法規（介護保険法）　介護保険の仕組みと利用 サービス開始までの流れ
3	在宅看護の仕組み２	介護保険における給付内容　居宅介護サービス　施設介護サービス
4	在宅看護の仕組み３	介護保険における給付内容　地域密着型介護サービス
5	在宅看護の仕組み４	在宅看護にかかわる法規（健康保険法、障害者自立支援法）
6	在宅看護の仕組み５	介護保険法と関係職種の機能　介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割
7	他職種との連携１	チームケアの理解　在宅チームケアの意義　看護職同士の連携・協働　他職種との連携・協働　在宅チームケアの実際の理解　在宅チームケアにおける看護の役割の理解
8	他職種との連携２	
9	他職種との連携３	ケアマネジメントと看護の役割　ケアマネジメントの概念　ケアマネジメントの過程　サービスの調整と実際
10	退院支援・退院調整１	退院に関する患者・家族の意向 退院支援・退院調整のプロセス
11	退院支援・退院調整２	退院調整に関わる職種とその役割　医療機関・施設・地域の連携システム
12	在宅看護の展開１	在宅看護過程展開のポイント　在宅看護過程の特徴
13	在宅看護の展開２	
14	在宅看護の展開３	
15	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア」櫻井尚子（メディカ出版）
参考書	「介護保険制度に関するパンフレット」（1冊200円程度）

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	病院実習	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。		
学習到達目標	1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。		
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。 看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅱ、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。		
成績評価方法・基準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。 全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。		
準備学習の内容	1.看護援助学演習Ⅰで学習した技術の復習 2.看護過程の復習		

回	講義題目	講義内容
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。
	学内合同カンファレンス	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。

教科書	基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項
参考書	特に指定しない